宮城発の食品消費者にPR

仙台・あすからフードサミット

宮城県内の食品製造・卸の10社が集まる「食のみやぎ応援宣言！ みやぎフードサミット2020」が22日、仙台市太白区のララガーデン長町で始まる。新型コロナウイルス感染拡大で取引先の飲食店や土産店の客足が戻らない中、巣ごもり需要を取り込もうと買い物客に新商品を発信する。

18年に始まり、3回目。これまではバイヤーを招く展示会形式だったが、今回は初めて一般向けに開く。10社は仙台牛や金華さば、フカヒレといった県産品の取り扱いを始める。新型加工品を販売する。

山根商店（松島町）は3種の大豆肉のハンバーグを発表する。石巻市のイワシ、気仙沼市のサメ肉、女川町のサケをそれぞれ混ぜ込んだ。高タンパク、低カロリーが売りで、魚が苦手な子どもや健康志向の消費者に売り込む。

同社が主力の原料とするウナギやサンマは近年の漁獲量激減で安定した売り上げが確保できず、昨年秋から大豆肉を使った新食品開発に取り組んだ。販路の開拓は、新型コロナの感染拡大で立ち遅れた。

山根伸一郎専務（56）は「試食販売ができず、新商品の投入が難しい時期だった。今年初のイベント出店で、商品をたくさん知ってもらうきっかけにしたい」と意気込む。

企画する食品卸かねク（多賀城市）では、月の売り上げが前年比で最大3割減った。遠藤伸太郎社長（48）は「外食や観光の需要が落ち込み、各事業者は厳しい状況が続く。会社や商品の認知度を上げ、販路拡大につなげたい」と話す。

フードサミットは午前10時～午後6時。1隣おとのひろばで開く。試食はできないが、大型画面で各社のPR動画を放映。

バスケットボール男子のBリーグ2部（B2）仙台と巣ごもり需要に照準

10社参加

塩釜そば金華さばのあるスープ

宮城県産の加工食品を消費者に売り込んだフードサミット

フードサミットで販売する新商品の大豆肉のハンバーグを説明する山根専務

産後の家事育児支援

サービス消費では、観光支援事業「Go To トラベル」により個人消費を中心に回復が見られる一方、インバウンド（訪日外国人）の低迷が続く。アイリスの海外法人は設立はスカ国目。広報担当者は「2022年のグループ売上高は99・9%

買って応援 宮城の食

仙台でフードサミット 25日まで

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受ける宮城県の食品製造・卸10社が集まる「食のみやぎ応援宣言！ みやぎフードサミット2020」（一般社団法人食のみやぎ応援団など主催）が22日、仙台市太白区のララガーデン長町で始まった。25日まで。

各社が牛タン鍋、フカヒレまんじゅう、金華さばの缶詰などを買い物客に売り込んだ。太白区の主婦鎌田茂子さん（74）は「知らなかった地元の食がたくさんあった。家族で食べて応援したい」と話した。

仙台牛のコロッケを扱うマルイ（仙台市）は外食需要が減り、売り上げは前年比で3割減った。柿沼潤夫専務（70）は「消費者に直接PRできる機会は貴重だ。自宅でかしぜいたくな食事を楽しんでほしい」と呼び掛けた。

会場では、参加企業とバスケットボール男子のBリーグ2部（B2）仙台との連携商品も発売。大和煮の缶詰、牛タンのデミグラスソース煮込みの缶詰、かきあめ、フカヒレの姿煮が選ばれた。チームのロゴをパッケージにけけて売り出す。

開業から11年のララガーデン長町で地元の食を扱う物産展の開催は初めて。今後も地元の活性化に向けたイベントを展開する方針。